人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光ＮＰＯ」が発信する隔月刊情報紙

第４７号　発行日２００７年５月２１日

Contents

JN総会で渡辺大臣が講演 ―― 1
東北支部設立記念講演要旨 ―― 2
霞が関情報（重田課長） ―― 3
観光人国記（仙台市長、岩沼屋） ―― 4
立教支部、東京NEWSPOT ―― 5
JN協会6年の歩み① ―― 6
JN協会6年の歩み② ―― 7
リニア新幹線で講演（白澤氏） ―― 8
日観協・中村会長、 COLUMN ―― 9
お得な情報（天外天）、リニア試乗記 ―― 10
寺前氏からの提言、あめりか通信 ―― 11
JN協会18年度決算（案） ―― 12

東北の夏を彩る三大祭りの一つ「仙台七夕祭り」は、毎年8月6～8日に開かれる。200万人以上の観光客が訪れるが、土日が入ると膨れ上がるそうだ。ちなみに三大祭りは、ほかに秋田の「竿灯」、青森の「ねぶた」。

巻頭言

渡辺・行革大臣が難題の「天下り規制」で講演

ＪＮ協会が５月にプレスセンターで開く総会で

ＪＡＰＡＮ ＮＯＷ観光情報協会（松尾道彦理事長）は、５月21日午後６時から東京・千代田区の日本記者クラブ10階ホールで会員総会を開く。平成18年度決算、19年度事業計画及び予算案などを審議する。平成19年度は９月ごろ10番目の支部となる「中国支部」を新設し、北海道から九州までの全国ネットワークが完成する。ＪＮ協会は「都市再生・観光振興・環境保全」という活動目標の実現に向けた活動をいっそう積極的に展開する。

また21日午後６時30分からは、ＪＮ協会発足７周年記念の講演会に渡辺喜美・行政改革担当大臣をお招きして「難題の道州制導入と国家公務員の天下り規制」をテーマに講演していただく。気さくな人柄でお話しも分かり易い。

渡辺大臣は日本の金融危機のさい、銀行への公的な資金投入に関する法案の作成に参加するなど行動力と突破力を備えた自民党の「政策新人類」として大きく成長し、安倍総理から国家公務員の天下り規制という難題を担当する行革大臣に抜擢された。当日は200人の参加を予定している。

（ＪＮ協会事務局長　白澤照雄）

東北支部設立に210名が参加

松本氏らが「観光・道州制」などで講演

ＪＡＰＡＮ ＮＯＷ観光情報協会は４月13日、仙台市で９番目の「東北支部」設立総会及び「新世紀・大東北圏の活力と魅力を探ろう」（観光立国フォーラムin仙台）を開催、東北各県から約210人が参加し盛況だった。支部長には仙台商工会議所の丸森会頭が就任し、「観光の経済効果は大きい。６月には東北観光推進機構が発足するが、ＪＮ協会東北支部も観光振興のため頑張る」と抱負を述べた。

村井・宮城県知事、梅原・仙台市長のメッセージが披露され、来賓として佐伯・東北運輸局長、幕田・東北経済連合会会長が観光資源に恵まれた東北観光への期待を表明した。講演会ではＪＲ東海の須田相談役、松本・元自治事務次官らが観光・道州制導入で講演した。（写真は挨拶する松尾理事長）

資源豊富な東北、チエで発展を！

まず国内交流増やすことで観光振興はかれ

JR東海相談役　須田　寛氏

中部広域観光推進の中心的役割も果たしている須田氏はまず、能登大地震について「風評被害で石川、富山、福井の各県への観光客はひどく落ち込んでいる。こちらからも行って下さればありがたい」と訴えた。引き続き本題に入った。

国内観光は、ここ10年来低迷している。中には20％減という観光地もあり、地域経済への影響は大きい。一方､国際観光の収支は3兆6000億円もの赤字であり、小泉内閣が始めたビジット・ジャパン・キャンペーンでは、2010年に1000万人の海外客誘致を目指している。外国から来てもらうためにも、まずは日本人の国内観光旅行の振興が先決だと思う。

観光産業の波及効果は、GDPへの寄与は50兆円にものぼり雇用吸収力も400万人と大きい。ただ、関係する業者、企業が数十万もあり、まとまりが無いことが問題。旅館や旅行業者の近代化、大福帳経営からの脱皮が急がれる。

東北地方は、自然、歴史、建築物など、観光資源に大変恵まれている。しかし、従来型の観光旅行メニューでは、新味が無い。私は、こうした資源の再編成を提案したい。それはテーマ別の観光である。詳しくは、ここでお配りした『新しい観光』（須田著作）を読んでいただきたいが、大きく分けて産業観光、街道観光、都市観光の3点を挙げたい。機能別では、「観る」「学ぶ」「体験する」の3つの要素がある。

地元の人たちがチエを出し、雪や温泉、美味しい食べ物などの豊かな資源を活かす広域観光ルートを生み出していただきたい。新幹線も北海道へ延びるという。北海道とも結んだ、すばらしい大観光圏になると思う。

道州制と広域観光は結びつく

地方分権を進め、地域の活性化を！

地方制度調査会専門委員長・松本英明氏

いま道州制の実現に向かっている。観光も広域化しており、道州制と観光の相性は良いと思う。安倍内閣は、小泉さんの後を受け、道州制担当大臣を置くなど、21世紀に相応しい地方のあり方を検討している。

道州制の論議は戦前からあったが、ここへ来て急速に盛り上がってきた。いまの都道府県制は、明治22年に出来上がり、その骨格は120年変わっていない中央集権制度である。

その中央集権から地方分権への転換が、道州制の基本であるといえよう。地方の仕事はその地方団体の自己決定と自己責任で進めるということだ。道州制が実現すると、中央政府の仕事は、国でしかできない分野に限り、地方は自前の政策をたて推進できるシステムになるということである。

それには財源の問題があり、国からの財源委譲が大前提となる。さらに国民の幅広い論議も欠かせない。日本経団連も3月に「第一次提言」を出した。

全国的にムードは盛り上がっており、今年中には“行程表”が示されるだろう。

新幹線の青森延伸を活かして

仙台地下鉄東西線の完成は平成27年

鉄道運輸機構計画担当理事

高山博文氏

東北新幹線の八戸―新青森は、予算ベースで72％進んでおり、平成22年度の完成に向け順調な歩みだ。さらに北海道・新函館へは平成27年度に伸びる。青函トンネルは、新幹線と在来線貨物列車との共用になる。新幹線用の線路を建設し､線路3本方式で運用することになる。この方式はポイント切り替えが難しく、今その具体的な進め方を検討中。もう一つの話題は、26キロﾒｰﾄﾙに及ぶ八甲田トンネル。複線式の陸上トンネルとしては世界最長となる。

東北新幹線の延伸が実現すると、東京―青森が3時間30分と30分の短縮、東京―函館が4時間10分で約2時間の短縮。九州新幹線や長野新幹線の開業後を見ると、交流人口が大きく伸びている。それは、観光振興にもつながることになる。ぜひ、その道具として活かしてもらいたい。

仙台の話題で言えば、空港線が3月に開業し、仙台駅―空港間の所要時間が40分から17分へ縮まった。利用客も一日平均1万人と、予定通りの数字が出ている。

地下鉄東西線はリニア方式で、1000分の67という急勾配をクリアーできることが、ミソ。全線開通は平成27年度である。

日本海事センター会長に松尾氏が就任

海事財団と海運振興会が統合して発足

「日本海事財団」と「日本海運振興会」が統合し４月１日、財団法人「日本海事センター」が発足、新会長に海事財団会長の松尾道彦氏（ＪＡＰＡＮＮＯＷ観光情報協会理事長）が就任した。

事務局は千代田区麹町の海事センタービル８階に置く。新会長の松尾氏は「海事分野の公益事業推進のナショナルセンターとする。調査研究・政策提言など、効率的かつ適切な事業を進めたい」と述べている。

東　京
霞が関発の最新情報
国土交通省・総務省・財務省

「お宝」見つけて観光振興へ全面展開

国土交通省総合政策局
観光地域振興課長
重田雅史（おもだ・まさし）氏

―地方の商店街がシャッター通りとなるなど、沈滞していますが、観光振興でうまくいっているところはありますか？

昨年８月に当時の北側一雄国土交通･観光立国担当大臣の指示により地域で観光振興で成功している100の街を選びました。「地域いきいき観光まちづくり－１００－」として公表しました。北は北海道・函館から南は沖縄県･竹富町まで100市町村です。例えば青森県･横浜町では作付面積日本一の菜の花を最大限に活用して、菜の花フェスティバルを開いて06年には観光客が約26000人と15年前の約4500人から５倍以上に増えました。

―この他の街で面白いやり方で成功しているところはありますか。

大分県･豊後高田市はシャッター通りの商店街が息を吹き返しました。「昭和の町」事業をはじめて成功しました。昭和の店つくりを、民間の受け皿組織「豊後高田市観光まちづくり株式会社」が整備するとともに営業活動を始めた。昭和ロマン蔵、駄菓子屋の夢博物館、ダイハツミゼット昭和の街に集まれ、昭和の絵本美術館の開館、などを次々に行いました。「豊後高田昭和の街づくり」が「手づくり郷土賞」を受賞するまでになりました。青森県・八戸市は八戸屋台村「みろく横町」を作りグルメの観光客を呼び込み成功しました。

―成功した観光地に共通しているものは何でしょうか。

共通していることは観光地としての目玉である「お宝」をきちんと見つけていることでしょう。高知県馬路村のユズとか青森県八戸市の屋台とかです。その上に人と組織が出来ている。その上にマーケッティングが上手という事が揃っています。観光振興にはよそ者、ばか者、若者が必要といわれますが、その通りでしょう。（聞き手・阿部和義）

【プロフィール】
広島県出身。東京大学法学部卒。1983年運輸省（現国土交通省）入省。国際観光振興機構（JNTO）パリ観光宣伝事務所長、内閣官房副長官補室内閣参事官。2006年7月現職。47歳。

国際観光振興機構の理事長に
間宮日本郵船元副社長が就任

海外からの観光客を誘致するための仕事をしている国際観光振興機構（ＪＮＴＯ）の中村稔理事長は2007年４月１日付で間宮忠敏・日本郵船元副社長と交代した。中村理事長は日産自動車の常務から初めての民間出身の理事長になり、３年間勤めた。間宮新理事長は66年3月に東大経済学部を出て、日本郵船に入社してアジア事業部長、貨物第一業務管理グループ長などを経て03年に副社長、05年４月に取締役になり、05年６月から特別顧問。64歳。

千葉県が城西国際大学と観光協定

千葉県（堂本暁子知事）と城西国際大学は観光分野で連携する協定書を07年５月２日に交換した。県が行政情報を提供したり、職員を派遣したりする一方で大学は鴨川市にある観光学部の研究成果を県に伝える。千葉県庁を訪れた石田益美副学長（観光学部長）は「健康と観光を結びつけた商品開発、新しい観光資源の提案、観光産業に従事する人材教育などで協力していきたい」と抱負を語った。

ミシュランが日本の観光ガイドを発売

観光地やレストランを星の数で格付けする「ミシュラン」が初の日本旅行ガイド「ボワイヤジュ・プティック・ジャポン」を４月４日に発売した。ガイドによると「必ず訪れるべきだ」と三つの星が着いた観光地は東京、京都、奈良、日光、富士山、姫路城、厳島神社、飛騨高山など。「非常に興味深い場所」の二つ星は、鎌倉、金沢、伊豆半島、大阪、長崎、知床半島など。名古屋、神戸、広島は「興味深い」の一つ星である。この分類は４人のスタッフが約７カ月かけて日本各地を訪ねて審査した。

日本を訪問するフランス人向けで１万部印刷。

「東北観光推進機構」が6月誕生へ
東北7県が手を携え観光振興目指す

東北地方へもっと観光客を――東北7県の官民が一体となって組織する『東北観光推進機構』（仮称）が、6月7日に仙台市のホテル「メトロポリタン」で誕生する。観光推進のための広域組織は『九州観光推進機構』に次ぎ2番目。

設立趣意書によると「東北地方は、豊な資源に恵まれながらも、その魅力度・認知度が北海道や九州・沖縄に大きく引き離され、東アジアにおいてもいぜんとして低位にある。観光を“戦略産業”と位置づけ、官民が一体となって広域的な交流・連携を進め、『東北の観光戦略』を推進していく」としている。

事務局は、仙台市にある「東北経済連合会」内に置かれ、国内外に対する東北の認知度アップ、そして観光客を増やすための事業を行う。

観・光・人・国・記

仙台を東北のゲートウエーに

海外経験を生かし、外国客誘致に奔走

仙台市長　梅原克彦（ｳﾒﾊﾗ・ｶﾂﾋｺ）氏

1978年、東大法卒。通産省（現経済産業省）に入り、（財）海外貿易開発協会アジア・太平洋地域代表兼バンコク事務所長、在米大使館公使、通商政策局通商交渉官を経て、2005年退官。同年8月、仙台市長当選。

国際感覚に富んだ人である。それもそのはず、通産省（現経済産業省）時代、タイのバンコクや米国のワシントンなど5年の海外勤務を含め、海外との接点が多い通商畑が長かった。バンコク時代に目覚めたのか、観光なかでも海外客誘致問題に熱心。杜（もり）の都・仙台を国際都市に育てるには格好の市長といえよう。

「トップセールスは当然のことですが、海外から来られるＶＩＰには、私自身トップ案内人をつとめます」という。留学生との接触も積極的。留学生の集いなどにも自ら出向き、得意の語学を活かして輪に加わることもしばしば。**「彼らには、仙台ファンさらには日本ファンになってもらい、帰国後にはロコミで日本行きを勧めてもらいたいのです」**。

自動車や家電のような機械産業が少ない東北地方にとって観光が産業としても大きな意味を持つ、と梅原市長は捉えている。裾野が広いので、地域振興の柱になるからだ。全体のパイを先ず大きくする、それを分け合って共栄する、という考えだ。

プロモーションの進め方についても一家言ある。

「三つのアプローチがあります。一つはメディアの活用で、昨年は世界的な科学雑誌『ネイチャー』に東北大学と仙台の特集を組んでもらいました。東北の人は奥床しいのか、情報発信が下手というか、極めて少ない。そこで、メディアへの露出に積極的に取り組んでいます」。二つ目は、ＶＩＰ対応という。国際会議の招致はむろん、少人数でも市長が進んで招き案内するそうだ。最近では、日中韓中央銀行局長会議とか、ＡＳＥＡＮの大使会議なども仙台で開いた。**「旅行関係業者との関係強化が三つ目です。2008年の仙台･宮城デスティネーションキャンペーンは、連携を深めるきっかけであり、市としても推進本部を設置して対応します」**。

それと梅原市長が強調するのが、積極的な市民参加。**「自分たちが住みたい街、住みよい街でなければ、観光客を招いても評価してくれない。自分たちの街をよく知ることも大切」**という。

先日、『外国人観光客おもてなし講座』を開いたところ、募集定員の3倍の120人の申し込みがあったという。みな語学はできるが、自分たちの街をもっと知ることで、外国からのお客を案内することに役立てたいという意欲を持った市民が集まった。

仙台は東北地方の交通の要衝であり、**「国民より多くの人が訪れるシンガポールのような“ゲートウエー”の役割を仙台が果たすことができるはず。そうすれば、美しい自然、美味しい食材など豊かな資源を持つ東北地方の繁栄につながる」**と梅原市長は強調する。

次々と新手を繰り出し客を楽しませる

仙台・秋保温泉の『岩沼屋』女将

和服姿で始球式―そんな姿を想像できますか？その主は、仙台市郊外にある秋保温泉『岩沼屋』の女将・橘眞紀子さん。特訓の甲斐あって、見事ストライクだったそうな。一昨年、仙台での楽天―ロッテ戦でのこと。これには付録もある。ここに泊まったロッテの応援団が「女将さんの始球式で、試合に負けた」とボヤいたという。

もう一つ、本業とは別の顔も持つ。インターネットで仙台をＰＲする「仙台カフェ」というコーナーのナビゲーター。「秋保はいまホタルが飛び交います」とか「秋保特産のミソが完成しました」など、秋保温泉を売り込むためのホットな情報を発信するために仕事が終わった深夜、パソコンに向かうのだそうだ。

この『岩沼屋』、400年の歴史を持つ旅館だが、伝統にしがみつかず次々と新しい手を打っているのも、眞紀子さんのキャラクターか。２、３例を挙げてみよう。喫茶コーナーでの“ゆったりチェックイン”、“完全禁煙のレディースルーム”、“個室で受ける本格エステサロン”、さらにサイズを揃えたお子様浴衣や赤ちゃんグッズなど、女性らしいアイデアに溢れる宿である。

本筋の食事でも凝っている。京都の一流料亭で修業した料理長を三顧の礼で迎え、塩分が多いとされる仙台の料理との調和を図り、“岩沼屋料理”を開発した。「美味対決膳」と銘打った仙台牛と本マグロを使った料理、「桜鯛づくし」という鯛のフルコースなど、グルメな料理も評判。さらに、アレルギー体質や糖尿系の客などには、体質に合わせた料理を特別に作るという気配りもされている。リピーター客が多いのは、ここらに秘訣があるのだろう。そんな女将にも贅沢な悩みがある。４ヶ所の無料家族風呂があるが「人気が高くて、有料でも良いから予約ができるようにして、という要望が多いので少し考えようかと思っています」。

多彩な才能を持つ眞紀子女将、その一面がうかがえるのが館内あちこちに飾られた日本画。小学校教諭の資格を持ち、「趣味は絵を描くことです」という女将の作品だそうな。（市長ｲﾝﾀﾋﾞｭｰともに加納）

『岩沼屋』（982 - 0241仙台市太白区秋保町湯元字薬師107）電話022-398-2011

両国ツアー ～ 留学生とともに

田久保・立教支部長

３月31日、今回は両国へ行ってきました。メンバーはゲストさん８名(中国人６名、韓国人１名、ベトナム人１名)と、ホスト６人の計14人です。今回のツアーの流れは両国駅に集合、駅前で昼食をとり、江戸東京博物館へ。その後、水上バスに乗ってお台場へ、というものです。両国という独特な土地で、いかに日本を感じさせられるかがポイントです。

まず両国駅に到着してから、小さな力士像の前で記念撮影。駅を出てすぐの「花の舞」で昼食をとったのですが、ここのお店は店内に土俵があったり、入り口に相撲グッズが販売されていたりと、面白い造りになっています。これはゲストさんたちも興味津々な様子でした。肝心のメニューもちゃんこ、そばなど、日本的なものが手ごろな値段で食べられ、満足のいくものでした。さらに見ても楽しめるすてきなお店でした。

「江戸東京博物館」は､外観はとても近代的なのに中へ入ると、たくさんの資料や模型があります。しかし、ただ見るだけではなく、人力車に乗れたり、殿様が乗る駕篭に乗れたりと実際に体験できるものもたくさんありました。自分の身体で触れて一緒に体験できるものは、たとえ言葉が通じなくても同じ体験をすることができ、お互いがより一層近づくのに役立つと思います。

最後は「水上バス」です。ここではちょっとしたトラブルもありました。ツアー開始時にチケットをまとめて購入しておいたのですが、途中で帰宅してしまったゲストさんが数名いたので、チケットが余ってしまったのです。

花見シーズンということもありこの時期水上バスは非常に混むため、安全策をとったつもりが逆に裏目に出てしまいました。急遽乗り場にいた観光客に買ってもらったのですが、これは今回のツアーの大きな反省点となりました。しかし乗船してからはみんな大はしゃぎで、楽しい船内となりました。今回水上バスに始めて乗る人も多く、新しい体験にとても喜んでもらえました。

お台場に着いてからは解散だったのですが、夕食を呼びかけるとそこにいたゲストさん全員が参加してくれました。残念ながら私は行けなかったのですが、とっても楽しい会だったそうです。これからもナゲッツを通じてより多くの交流を持ち､また日本の魅力を外国人の人たちに発信するだけでなく、自分たちも知っていきたいと思います。

NEW SPOT in japan ② 東京駅再生

交通の要衝・東京駅とその界隈が観光地に変貌している。丸の内のビジネス街に買い物や見物客が増えたのは５年前に丸ビルが高層36階に改築開業してからか。その丸ビル内のレストランや店舗は140店、この４月末にオープンした新丸ビルは37階で153店。館内には立ち飲み居酒屋や午前４時まで営業の店もあり、始発近くまでくつろげる。丸の内口は、国鉄本社跡のＯＡＺＯ(オアゾ)31店、ＪＡＬ本社があった東京ビル跡のＴＯＫＩＡ(トキア)29店など出店ラッシュで、主なビル合わせて、少なくとも740店にのぼる。これは日本屈指４千店とも６千店ともいわれる商店街・銀座につぐ賑わいだ。丸の内のレンガ街が高層ビルの谷間に埋もれて行く中、ＪＲ東日本は「東京ステーションシティ」構想を進め、「東京駅が、街になる。」とうたう。

立ち飲み居酒屋もある新丸ビル5階の飲食店街

国の重要文化財である丸の内駅舎を1914年開業当時３階建ての姿に「復原」する。５月30日に着工、2012年初め完成予定。地下の免震装置など新技術を駆使する計画だ。ＪＲ社内では、京都駅ビルのような新しいデザインの高層ビルに建て替えよう、との意見もあったらしいが、日本の表玄関、シンボルとして保存派が勝った。効率性と美観との兼ね合いは難しいが、単に懐古趣味でなく、文化遺産は大切にしたい。整然とした区画も悪くないけど、人々の心が通い、安らいだ、気楽に過ごせる横丁気分の街がいい。　　(写真・文　林　荘祐＝会員)

JN協会6年の歩み①

2001年4月発足したJAPAN NOW観光情報協会は、7年目を迎え順調に活動を展開しています。「東北支部設立と観光立国フォーラムｉｎ仙台」開催にあたり、これまでの歩みを振り返ってみます。

ＪＮ協会の活動目的

21世紀は世界的な観光交流が拡大し、「観光の世紀」と言われています。政府も官民一体で振興に取り組んでいます。JAPAN NOW観光情報協会は平成13年4月に「都市再生・観光振興・環境保全」を目的としたNPO法人として石原・東京都知事から認証され、活動しています。日本が観光立国として発展するためには、従来の観光振興だけでは限界があり都市の再生、活性化による地域経済の振興や環境保全が必要です。

当協会はこうした理念のもと、市民レベルの「第三の社会セクター」（NPO）の立場から既存の「第一の社会セクター」（国、自治体など公的機関）や観光、鉄道、航空、電力、ゼネコンなどの「第二の社会セクター」（営利法人）が発信する都市再生・観光・環境保全情報の補完に取り組んでいます。

ＪＮ支部の設立

- **新宿支部**（2001年4月、片山文彦・花園神社宮司が支部長）
- **北陸支部**（2002年10月、水野卓哉・北陸鉄道会長が支部長）
- **立教支部**（2003年12月、支部長は学生会員の持ち回り）
- **九州支部**（2004年3月、長尾亜夫・西日本鉄道社長が支部長）
- **中部支部**（2004年7月、須田寛・JR東海会長＝当時＝が支部長）
- **神戸支部**（2005年3月、岩田弘三・神戸商工会議所副会頭が支部長）
- **北海道支部**（2005年11月、JR北海道会長の坂本眞一氏が支部長）
- **四国支部**（2006年4月14日、JR四国会長の梅原利之氏が支部長）
- **東北支部**（2007年4月13日＝予定、丸森仙台商議所会頭が支部長へ

写真は発足メンバー

ＪＮ協会の活動実績（講演会）

第1回：「国際観光を楽しむ」　平成13年10月22日（月）　基調講演：向山秀昭氏（国際観光振興会長）

第2回：「都市の活性化と国際観光」　平成14年1月31日（木）　講演者：カトリーヌ・オーデン氏（フランス政府観光局長ら

第3回：「都市の交流と国際観光」　平成14年5月21日（火）　**講演者：羽生次郎氏（国土交通省国土交通審議官）**

第4回：「北陸新幹線と地域振興」　平成14年10月4日（金）　於：金沢市　講演者：**松尾道彦氏(鉄道建設公団総裁、当協会副理事長)**

第5回：「内外経済事情」　平成14年11月21日(木)　講演者：渡辺 修氏（日本貿易振興会理事長）

第6回：「激動する航空業界の現状と今後」　平成15年5月30日(木)　**講演者：野村吉三郎氏（全日本空輸会長 ）**

第7回：「江戸文化と大道芸」　平成15年 8月10日（日）　於：新宿・花園神社　シンポジウムのパネリスト：　片山同社宮司ら4名

第8回：「観光立国と箱根の魅力」　平成15年9月4日（木）　基調講演者：中村徹氏（日本観光協会会長）。
討論者；山口昇士（箱根町長）、金澤悟（国土交通省観光部長）、福川伸次（電通顧問）の各氏。

第9回 ：「九州新幹線の開業に向けて」 平成16年3月1日（月）　於：ホテル日航福岡　講演者：高山博文氏ら

第10回 ：「日本経済の再生と観光立国」 平成16年5月27日（木） 講演者：福川伸次氏（元通産事務次官）

第11回 ：「中部国際空港の開港と観光交流」および「愛・地球博の成功を目指して」
平成16年7月15日（木） 於：名古屋市　講演者：平野幸久氏（中部国際空港会社社長）、 中村利雄氏（万博事務総長）

第12回 ：「観光立国と国の安全」 平成16年12月16日（木）　講演者：国松孝次氏（元警察庁長官、前スイス大使）

第13回 ：「21世紀は大名古屋圏の時代」 平成17年1月25日（火） 於名古屋市・銀行協会ホール
基調講演：福川伸次氏
パネラー：奥野信宏、安原敬裕、 須田寛、水尾衣里の各氏

第14回：「神戸空港開港に当たって」平成17年3月17日（木）　講演者：茨木康男・大阪航空局長、山本朋廣・神戸市港総局参与、神田勉・同市企画調整局参与

第15回：「サッカーと観光立国」 平成17年5月24日　講演者：鈴木昌・Jリーグチェアマン（JN通常会員総会のあと） 於ホテルKKR

第16回：「大九州圏観光フォーラム2005」平成17年9月21日（水）。福岡市の西鉄グランドホテルで。渡辺修・ジェトロ理事長ら5人講師

第17回：「21世紀は大北海道圏の時代」平成17年11月08日（火）。講師：電通顧問の福川伸次氏（元通産事務次官）、照明デザイナーの石井幹子氏、国土交通省総合観光政策審議官の柴田耕介氏ら4人。

第18回：「大四国圏の活性化と将来展望」平成18年4月14日（金）。講師：機械産業記念事業財団会長の福川伸次氏ら3人。

第19回：「地球規模の観光大交流時代ですよ」 平成18年5月19日、第5回通常会員総会記念講演会。講師は岩村・前国土交通事務次官マリ・クリスティーヌさん。

第20回：「魅力溢れる大中部圏の現状と将来」平成18年7月14日（金）。講師は須田寛・JR東海相談役、金澤博・鉄道運輸機構理事（新幹線担当） 200人参加。 翌15日は「かほく市」で、北陸支部主催の講演会（講師・松尾理事長ら4人）120人参加

第21回：「第2回・21世紀は大北海道圏の時代」 平成18年11月9日〔予定〕。札幌市で。講師は、鈴木久泰・国土交通省航空局長、小川康則・総務省行政課理事官、大多和巖・農林中金総合研究所社長

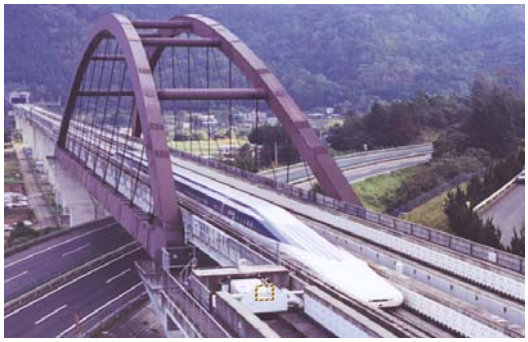
第22回：「食育・動育・心育による町おこし」「港・横浜と観光」平成18年11月28日（火）。講師は、中尾・国交省港湾局長ら。

第23回：「新世紀・大東北圏の活力と魅力を探ろう」平成19年4月13日（金）。仙台市で、講師は須田寛・JR東海相談役ら3人。

JN協会6年の歩み②

ＪＮ協会の活動実績（見学会）

第1回:　山梨県都留市の山梨リニア実験センター　平成13年11月8日（木）。
JRマグレブ・リニアカーの試乗会。丹羽理事長以下15名が参加、
時速450キロを体験。
第2回:　東京電力柏崎刈羽原発など。　平成14年8月24日(土)､25日(日)
参加者25名。**協力：原子力発電技術機構**
第3回:石川県・能登空港　平成15年7月8日（火）
7月7日開港した能登空港見学。丹羽理事長、水野・北陸支部長ら
10名が参加。
第4回:都留市リニア実験センター　平成15年10月8日（水）
松尾副理事長や電力、ゼネコン、鉄道などの団体会員ら30名参加。
時速500キロを体験。
第5回:横浜市みなとみらい線　平成16年1月21日（水）
2月1日開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら30名が参加。
第6回:九州新幹線（鹿児島中央駅～新八代駅）　平成16年3月1日（月）
3月13日の開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら20名が試
乗会に参加。
第7回:開港前の中部国際空港　平成16年7月15日（木）。
松尾理事長ら約20名が参加。
第8回:建設が進む神戸空港　平成17年3月17日、松尾理事長ら20名が参加。
第9回:開港前の神戸空港　平成17年3月17日　松尾理事長以下約20人。
第10回:開業前の「つくばエクスプレス」試乗会。平成17年7月27日、11名参加。
第11回:3回目のリニア試乗会。都留市リニア実験センター　平成18年10月27日。
須田寛JR東海相談役が講師となり、松尾理事長らが参加。
第12回:4回目のリニア試乗会。平成18年4月27日。約30名参加。



**時速500キロで走行中のリニア〔06・10・27〕
山梨実験線センター屋上から杉行夫氏撮影**

リニアモーターカー試乗会。北海道、九州、北陸からも多数参加し、総勢30人近く。セットして下さった須田JR東海相談役に感謝。

ＪＮ協会の活動実績（イベント）

【大道芸シンポ】　2003年8月10日午後5時30分から、江戸開府400年事業に協賛し「市民 手づくりの江戸東京 まつり」を、東京・新宿の花園神社で開催。源吾朗さんの大道芸披露、今村昌平監督の映画「ええじゃないか」のさわりを上映、それにまつわる大道芸についてシンポジウムを落語家・古今亭菊輔さん が司会。100人が参加し江戸情緒を楽しんだ。
なお8日には、ロボット博士で有名な橋本周司・早稲田大学教授の講演「ロボットが宗教を変えられるか」が行なわれた。主催は花園神社。

【国際交流】 2004年10月23日、JN協会と富山県新湊市がイタリアのティボリ市長と助役招待、新湊市での「新湊産業海鮮まつり」に参加、保育園児らに迎えられる。真ん中は分家・新湊市長。新湊市は、その後合併で「射水市」(分家市長)に。

2004年10月25日、東京・プレスセンターで「ティボリと新湊の挑戦」と題する国際観光シンポジウムを開催した。マルコ・ヴィンチェツイ・ティボリ市長、分家・新湊市長、須田・JN協会副理事長、鷲頭・国交省観光審議官、大島悦子の各氏が「イタリアの世界遺産都市と観光立国の街づくり」について討論。参加者約150人。
今後とも、海外都市の市長との交流事業を進める予定。

ＪＮ協会の活動実績（研究会）

国土交通、旅行、エネルギー問題、都市再生、環境の5研究会を開設。副理事長を座長とし研究活動を実施。
(1)「観光の価値・評価」の研究会　2002年1月25日～2002年11月20日まで9回。 (2)「旅と危機管理」セミナー　2003～2004年末で9回。最終回は2004年12月16日、国松孝次元警察庁長官 を迎え「観光立国と国の安全」という題で、講演。
(3) 「観光立国セミナー」　2004年～2007年実施中。会員だけでなく、関心のある方の参加を歓迎。 いずれも、製本しJN協会に保存。会員企業、個人会員の閲覧は御自由にどうぞ。

ＪＮ協会の活動実績（提言）

JN協会は提言も積極的に行っている。平成14年7月リニア中央新幹線の実用化について小泉首相に提言した。 丹羽理事長（当時）は、平成15年1月東京駅周辺に「観光総合案内センター」の開設を、平成15年10月には「江戸城再建」を提言し、話題となった。 今後とも研究会活動の成果を踏まえ、積極的に「観光立国」等に関する提言を行う予定である。

2025年に首都圏－中京圏で営業運転

飛ぶ鉄道―リニア中央新幹線―実用化へ

白澤ＪＮ協会事務局長が金沢市で講演

ＪＡＰＡＮ ＮＯＷ観光情報協会の白澤照雄・副理事長兼事務局長は、５月16日金沢市の郷土発展振興会（加藤愛恵会長。ＪＮ協会参与）で、ＪＲ東海が山梨リニア実験線で実用化テストに取り組む超電導型リニアモーターカーによる「リニア中央新幹線」の実用化、営業運転について講演した。講演会にはＪＮ協会北陸支部会員など約50人が参加し、ＪＲ東海の資料を参考にしながら熱心に聞いた。

白澤氏は、講演の中で東京・名古屋・大阪間を結ぶリニア中央新幹線について松本・ＪＲ東海社長が４月下旬、2025年には首都圏と中京圏の間で実用化して開業を目指したい、との方針を示したことに触れ「日本のオリジナル超電導技術である超電導型リニアが実験の段階から実用化に向けて始動することになった」と述べた。

超電導型リニアは、国鉄時代の基礎実験から約45年が経過し、最近ではＪＲ東海が山梨リニア実験線（18.4キロ。複線）で、新型リニア車両による実用化テストを行い、数年前には時速581キロの世界最高記録を達成した。白澤氏は「延べ55万キロに及ぶ実用化試験の結果、超高速鉄道に必要な安全性・正確性・快適性が実証された。相対時速1300キロを超す、すれ違い走行やトンネル内で発生する圧縮波、「トンネルドン」という破裂音による列車への影響も少なく高い信頼性が確認された」述べた。ＪＮ協会は昨年10月、ＪＲ東海の須田相談役の参加を求めて山梨リニア実験線での４両編成による試乗会を実施したが、白澤氏はその模様を報告。

「リニアはU字型のガイドウエイに沿ってゴムタイヤによる粘着走行を始め、時速150キロに達したころ車両の連接台車ある超電導コイルが液体ヘリウムによってマイナス269度に冷却されて強い磁界が発生。リニアはガイドウエイの左右両壁に敷き詰められた推進・浮上・案内コイルから浮上・推進・案内力を受けて10㌢の浮上走行となり、あっという間に時速300キロから500キロの超高速運転となった」と、臨場感を交えて説明すると、驚きの感想が聞かれた。この実験線はＪＲ東海が3500億円をかけて24キロ延伸する。

さらに「運輸省（現・国土交通省）の超電導磁気浮上式鉄道評価委員会もリニアの実用化は技術的に可能」とのお墨付きを出している」と説明した。「リニア中央新幹線のルートは東京・甲府・諏訪・中津川・名古屋・亀山・奈良・大阪案が有力。のぞみ、ひかり型列車が運転され、最速列車は東京・名古屋・大阪を時速500キロで走り65分で結ぶだろう」との見解を示した。白澤氏は「リニアは環境にやさしい乗り物で例えばリニアの超電導磁石は一度電気を送ると、半永久的に電流を流し続けるので、走行中の電力を在型鉄道のように外部から集電する必要がない。車内の照明やエアコンの電源もガイドウエイの電磁石から車内に流れる電気を使うので、エネルギー効率がよい。この“非接触型集電方式”は二酸化炭素の発生や原油の消費を抑え、地球温暖化防止に役立つと言われている」と述べた。リニア中央新幹線の実用化への最大の課題は、８兆円から10兆円といわれる建設費の調達だ、と述べたあと質問にも答えた。

羽田空港国際化、一歩前へ

アジア・ゲートウェイ構想で

安倍首相が議長を務めるアジア・ゲートウェイ戦略会議は、「アジア・ゲートウェイ構想」をまとめた。

その中で、早朝・夜間枠を活用する国際チャーター便の拡充など大都市圏空港の24時間化などを盛り込んでいる。羽田空港は2010年に第4滑走路ができるが、漁業補償の難航で予定より完成がずれ込む見通しにある。

このため、戦略会議としては羽田空港の前倒し利用を打ち出した。とくに2008年に開催される北京オリンピック期間中の羽田―北京間のチャーター便を明記している。観光関係者は、これによって中国をはじめとするアジア諸国からの観光客増大が期待でき、小泉前首相が目指した『2010年外国人客1000万人』実現に弾みがつくとしている。ただ、この報告書では、依然続く首都圏空港の能力不足解消につながる抜本策は示されていない。

アジアでは、上海の浦東、韓国の仁川空港が08年に3000メートル級の滑走路が3本揃うなどハブ空港化を進めているのに対し、見劣りすることは避けられない。

この報告書では、ほかに「貿易手続きの簡素化」「留学生3倍増を目指し制度の改善」「グローバル化に対応する農業政策」「日本の魅力の海外発信」など、最重要10項目を盛り込んでいる。

JN会員の近藤節夫氏がホームページ開設

近藤節夫のホームページ

知の狩人　知の旅人

プロフィール　図解式自己紹介　論稿・エッセイ

手づくりのHPです。 Http://www.mr-kondoh.com

「観光立国と私の提言」②

産業の軌跡をたどる体験型の旅行を

日本観光協会　中村徹会長に聞く

JN会員　加藤　和子

「旅フェア」というイベントをご存じだろうか。自治体や観光関連業界が観光の振興を図るために設立された社団法人、日本観光協会が年１回開いている旅の見本市だ。

今年は４月19日から４日間、幕張メッセで行われた。同協会の会長、中村徹氏によると、初日はビジネスデーと銘打って、入場を業者に限定し、ドライブ旅行の拡大、名所旧跡を訪ねるだけでない季節の花を訪ねる旅、物作りの国、日本の誇る産業の軌跡をたどる体験型の旅行など「ニューツーリズム」のセミナーなどを開催した。

国内の旅行関係業者が一堂に会する場であるだけに、国内業者間のネットワーク作りや具体的な商談だけでなく、海外の旅行業者にとって日本各地の観光情報を手軽に収集できる得難い機会だ。

バブル崩壊後に観光需要が大きく変化し、社員旅行など団体旅行が急速にすたれ、個人が自分の旅を作る時代になったにもかかわらず、観光地も観光に携わる業者もまだ、その変化に追いつけず、模索を続けている。

中村氏は、これからの観光は、ＮＰＯなど地域に根ざした市民の活動を、資金的、人的に行政や経済界が支えて、一緒になって活動していかなければいけない。それを実現できた地域が観光振興で勝ち組になるのだと語る。

土産物屋や料理屋が単独で頑張っても「観光」としては盛り上がらないが、町全体で観光地として振興するにはどうしたらいいかを考え、その土地の物産や郷土料理の魅力をプロモートしていくような仕組み作りが必要だと訴える。

また「産業観光」、「フラワーツーリズム」、「ヘルスツーリズム」、「フィルムツーリズム」など、個人が普段から関心を持っている分野で好奇心を満たすこと、心身の癒しになること、こうしたことが観光客を呼び寄せるポイントになっているという。

日本観光協会では、「フラワーツーリズム」大賞などで、市民と行政、財界が一体となった活動を支援している。とにかく様々な視点から、様々な活動をしている、様々な人たちの力を集結すること･･･これが今の観光産業に求められている。

好みはスシ、行きたいは城、庭園

外国人が日本に持っているイメージは？　エクスポート・ジャパン㈱が、このほど109カ国1360人から得たアンケート調査によると、好きな食べ物は「スシ・刺身」がほぼ80％、「ラーメン」（65％）を引き離してのダントツ。世界遺産で認知度が高いのは、京都、原爆ドーム､姫路城の順。「行ってみたいところは？」との質問には、日本の庭、城、温泉が１～３位で、漫画カフェも上位にある。

観光とは直接関係ないが、「日本が世界で一番優れていると思うのは」とに問いには『製造業』が。80％強でトップだった。

ＣＯＬＵＭＮ

アバウト感覚

先日ある地方都市へ出かけた。ところが、目指す駅前の有名ホテルが中々見つからない。最寄りの駅から「徒歩5分」とあるが、30分近く彷徨った挙句、地元の人に尋ねてようやく辿り着くことができた。土地勘の悪さは別にして、その原因は駅前の特徴のない景観、地図の表示と、ホテル看板の掲出の仕方にあるとみた。

いまやカーナビならいとも簡単に目的地を見つけ出すことができる。人間の土地勘は完全に機械に後れを取った。現実には自分の立ち位置から目的地の方向が分かりくくなっているのだ。今日では、昔の観天望気のような永年の勘や知恵からものごとを推測する技術とか、全体を俯瞰する鳥瞰図の視点が欠けてしまっている。意外にも言葉や文字が分からない外国の都市では、あまりこんなことはない。東京の地下鉄よりニューヨークやパリの方がよほど分かりやすい。これは、ランドマーク的な景色や物体が容易に目に入ることと、地図にも遠方から凡その方角の見当がつくような工夫が凝らされているからである。その点では、現代より中世以前の都市計画や都市構造の方が幾倍か優れていたように思う。今日では、地域情報を必要とする地元のコミュニケーション力すら欠落している。

話題のＩＴ技術も結構だが、現代人も昔ながらの知恵とか、生活慣習をもっと積極的に取り入れるようにした方が効果的である。

大陸的でやや大雑把ではあるが、ロシア人の規範の中にはいまもこの意識が強い。例えば、シベリア鉄道の線路傍には、１kmごとにキロポストが建っている。そのキロポストのシベリア寄りとモスクワ寄りで表示が１km異なる。小さい数字がモスクワ方面で、例え吹雪で方向を見失ったとしても凡その方向が分かるような知恵と安全対策が施されている。

こうした素朴な知恵を、私たちももう少し見習った方が賢明だと思う。　（近藤）

お得な情報

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

天外天

果てしないという意味をもつ「天外天」。これは、ここの中国料理が広大な中国の様々な地域の文化と味を織り交ぜた、四川、広東、北京などの枠を超えた中国料理であることを意味している。

料理長の中川優氏は東京の有名中国料理店、赤坂四川飯店で長年料理長を務めた人だか、20年ほど前に「進化する中国料理」をテーマに独立してこの店を構えた。

料理は調味料なども既成のものは使わず、すべて手作り。これは食材の自然の味をひきだすためには、絶対に必要なことだそうだ。ここの名物は「特製おこげ」。空焼きをした土鍋に、手作りのおこげが入り、特製の熱々のあんをかけるとジューッという音がでるが、何処で食べるおこげよりも音がよい。

値段はハーフサイズで2,100円。小盆3,300円。今は春の食材で、春筍、中国湯葉と干し貝柱の煮込み2,200円、瀬戸内天然車えびのチリソース、3,300円そして、季節の魚（ヒラメや鯛）をグリーン野菜やナッツ、つまり中国風カルパッチョ合えたサラダ、つまりでなどがなどがお勧めである。

ランチメニューは1200円ほどから各種ある。住所は東京都文京区千駄木３－３３－１２．千代田線千駄木駅からすぐで不忍通り沿い。

営業時間はランチが、11時30分から午後２時30分。デイナーは夕方５時からでラストオーダーは９時30分。電話は03－3822－3333．（大島愼子）

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいてきた「JAPANNOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。４月に完成した2007年度版は、日本全国のホテル110館55,000室の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって生き生き伝えることが、「JAPANNOW」誌の編集方針です。2007年度版は、日本の伝統文化のスタンダードである茶の湯の大成者とその故郷である中世の国際交易都市に焦点を当てた「堺と利休」、および現代にまで生き続ける日本的自然観を紹介する「日本のナチュラルヒストリー」という2つの特集を中心に構成されています。また筑紫哲也氏への巻頭インタビュー「道草のすすめ」も収録しました。

1部2000円（送料別）で購入できます。お問い合わせは㈱ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

リニアモーターカー に乗って

4月27日、山梨リニア実験線にて夢の乗り物とわれるリニアモーターカーに試乗し、時速500キロの走行を体感した。新幹線の次の超高速鉄道として東京～大阪を1時間で走る、リニアモーター推進浮上式鉄道の研究が45年前にスタートした。10年後の1972年、初めて浮上走行に成功。1979年、鉄道の世界最高速度時速517キロを記録。トンネル、勾配、曲線を備えた新たな実験線が山梨に設けられ、先行区間18.4キロの距離の走行試験がスタート。2003年有人走行で時速581キロ、鉄道の世界の最高記録を更新。ギネスブックに認定された。

JN会員・前隆氏撮影

研究開発から40年あまりで夢が実現するとは、日本の技術がただものでない事が感じられる。更に試乗することになった前日の4月26日，JR東海が2025年にリニアモーターカーの営業運転を首都圏と中京圏で開始し東京～名古屋を1時間足らずで走る（現在の新幹線ひかりで約1時間30分）と新聞に発表。あまりのタイミングの良さに、現実味を帯びた体験となった。感想は、飛行機と似ている。車輪走行からはじまり、加速後その車輪をたたみ10センチ程浮上する､500キロの速さはつい足を踏ん張ってしまうほど。終点に近くなると速度を落として、車輪が出たときは飛行機の着地と同じ感覚がした。

超電導リニアの試乗会は、実験線の延伸などの工事に取り掛かるため、残念ながらひとまず終了することになった。リニア見学センターの営業は継続するので、リニアの仕組み等を理解するために是非出かけてみてはいかがでしょうか？山梨県立リニア見学センター。JR大月駅乗換え富士急行線で田野倉駅より徒歩15分～25分。

山梨県都留市小形山2381. 電話：0554 - 45 - 8121
休館：**月曜日、祝日**の翌日、年末年始。（堤るり）

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員（1口5千円）、 団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1－58－13小田急代々木ビル3階

JAPANNOW観光情報協会（電話03－5304－9500）へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2007年7月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2007年7月25日。締め切りは7月15日。

伊佐庭如矢と中田 鉄治

高崎経済大学観光学科教授　寺前秀一

伊佐庭如矢（いさにわゆきや）と中田鉄治の名前を読んで筆者の意図を瞬時に推測いただける人は観光政策学の講義を行うに有資格者である。いずれも故人であり、その業績は今後の歴史の評価にゆだねられているものである。

後者は今話題の夕張市長を6期・24年つとめた人である。夕張の主要産業だった鉱山の閉山後「分不相応の投資をしなければ、夕張市は再生しない」とし、観光振興を目当てに、テーマパーク「石炭の歴史村」の各施設の建設や、夕張映画祭に代表されるイベントを連発した。その結果、市長引退後の2004年に夕張市は財政破綻を迎えることとなった。彼をもてはやしたマスコミ、有名人にも責任はあろう。小泉内閣の地方制度改革が問題点を顕在化させたともいわれる。

前者は道後湯之町初代町長として道後温泉本館の総改築をおこなった人物である。道後鉄道の敷設等次々と新基軸を興しこれを進めた観光都市松山の先覚者であるとされる。古い温泉本館を建て替える計画があがった時、反対派の住民はむしろ旗をおしたてる騒ぎがあった。反対の理由は多額の金を要することで町の財政に破たんをきたす、改築すれば入湯料があがる、湯釜を替えると神罰が当たる、というものであった。この反対派を伊佐庭如矢町長は新しい道後温泉本館の模型を見せることで乗り切った。

お金の問題は公費が13万円以上かかることが分かったのであるが、有志が集まり、銀行から私財を担保に金を借りることで解決。無事、道後温泉は建て替えられた。伊佐庭の英断がなければ現在の道後温泉の発展は考えられない。

なお、政治家ではないが、東京オリエンタルランド初代社長川崎千春はオープンしたばかりのディズニーランドに出会い、「日本にディズニーランドを持って来よう」というとんでもない夢物語をぶちあげ、実行した人物である。京成電鉄の経営破たんの責任を取り社長を辞任したため、爾後東京ディズニーランドの創始者として取り扱われることはなかった。

新会員の一言メッセージ

横山　寛子

外国人のツアーガイドの仕事を通して痛感することは、東京を筆頭に、日本のごく一部を除いて、江戸時代の建築は破壊され尽くして、目に入るのはコンクリートの巨大な箱ばかり。天守閣は、再建のものを含めて100以上存在しておりますが、将軍の御殿、大名屋敷、上級武士の屋敷は日本全国見渡しても皆無です。

江戸城再建計画の中に、天守閣と本丸、二の丸・・大奥と完全な形での再現を是非行おうではありませんか！

以上が、私の心の底からの願いです。

なんでも結構です。一言メッセージをお寄せください。

あめりか観光通信 その12　～ゲッティ・センター～

ゲッティ・センター

４月にロサンゼルスに行く機会があり、前から訪れたいと思っていたゲッティ・センターに足を運ぶことができました。すばらしく真っ青に晴れたカリフォルニアの空にぽっかりと浮かぶように立っているゲッティ・センターの姿の美しさは思わず歓声を上げてしまうほどです。

石油王、ポール・ゲッティの遺産を元に作られたゲッティ財団がこのセンターを作り始めたのは1983年のこと。十年の年月を経て完成したセンターは膨大なゲッティ・コレクションを収蔵するいくつかの建物のほかにも，300種類の植物が植えられている中央庭園や300本のサボテンがあるサボテン庭園など緑豊かな自然が広がっています。その緑と青い空、そして白い建物の織り成すハーモニーは息を飲むようです。

展示は東、西、南、北に分かれたそれぞれのウイングにテーマに沿ってなされていますが、２階の絵画部門はこの４つのウイングがすべて繋がっていて、絵画好きの人々は階段を登ったり、降りたりすることなく鑑賞できます。

さらに各ウイングにはテラスになったビューポイントがあり、外に出るとロサンゼルス郊外の景色が目の前に広がるという嗜好です。

公共交通機関では行かれない場所にありますので、レンタカーは必須ですが、一日中ここで過ごしても決して飽きることはないでしょう。

最も驚いたのは入場料が無料だったこと。駐車料金を支払い、トラムに乗って入り口まで到着すればあとは思う存分、芸術鑑賞も庭園の散策もできますし、レストランやカフェも整っています。

後世にこのようにすばらしいものを残せるのなら、一人の人間に富が集中してもかまわないのではないかとつくづく感じました。日本ではこんなお金の使い方はまったく不可能です。カリフォルニアの青い空の下で日本の税制について考えさせられてしまいました。

皆さんもロサンゼルスにいらしたら是非お訪ね下さい。　　（ＪＮ会員　井上嘉世子）

JN協会の平成18年度決算（案）：単位千円

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,596	講演会費	2,160
講演会収入	1,924	JN紙発行費	633
個人会員会費	1,001	研究会費	677
団体会員会費	5,399	交通費	1,911
計	9,189	賃借料	1,602
		通信費	710
		ＩＴ 費	134
〔次期繰越	1,948〕	その他	1,010
		計	8,837

JN協会は、随時、経理内容を公開することにしている。経理の「透明性と情報開示」がNPO法人の大きな課題の一つであるとの指摘があり、会員の皆様の会費をもとに運営しているからには、公開が当然のことと考える。

注）①前年度繰越金（2007年3月末）は、1，596千円と、黒字を計上している。

②管理費に「人件費」の項目がないのは、理事長以下常駐の事務局員も全員無給ボランティアだから。JN発行費は、取材交通費インク代、用紙費であり、編集費はゼロ（無給ボランティア）。

③交通費は、常勤事務局員（4人）の自宅からの交通費プラス主として都内での取材などの交通費。

以上のように、無給ボランティアと手づくりでの情報紙発行など、極めて安上がりの体制。

気象とお天気の話 今月は休載です。

会員名簿

(敬称略) （個人会員名簿は公開していません）

名誉顧問 ： 松山善三（映画監督）
理事長 ： 松尾道彦（日本海事センター会長、前日本鉄道建設公団総裁）
顧問 ： 丹羽晟（前理事長、日本空港ビルデング相談役）
副理事長 ： 白澤照雄（ＪＮ協会事務局長）、岡村進（小田急電鉄嘱託）、橘元雅司（元国鉄副総裁）、横山善太（㈱ＪＡＬＵＸ特別顧問）、大島愼子（筑波学院大学教授） 、小竹直隆（元ＪＴB専務）須田寛（東海旅客鉄道相談役）
支部長 ： 片山文彦（新宿）、水野卓哉（北陸）、田久保万里夫（立教）、長尾亜夫（九州）、須田寛（中部）、岩田弘三（神戸）、坂本眞一（北海道）、梅原利之（四国）、丸森仲吾（東北）

【団体会員】（2007年05月21日現在）

㈱朝日ネット、㈱アドバン、荒井建設㈱、アンデス電気㈱、安藤建設㈱、池田煖房工業㈱、㈱伊勢丹、射水市（富山県）、㈱井六園ワールド、岩田建設㈱、㈱エスシー・マシーナリ、㈱ＨＫＩアクシス、㈱大林組、隠岐の島町（島根県）、㈱奥村組、小田急建設㈱、小田急電鉄㈱、㈱小田急トラベル、鹿島建設㈱、鹿島道路㈱東京支店、大阪国際空港ターミナル㈱、㈱大塚ベバレジ、関西電力㈱、九城企業㈱、㈱九電工東京支店、九州電力㈱、九州旅客鉄道㈱、㈱熊谷組、㈱グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄㈱、㈱耕人舎、佐川アドバンス㈱、三協立山アルミ㈱、㈱三普旅行社、四国電力㈱、四国旅客鉄道㈱、清水建設㈱、㈱ＪＡＬ－ＤＦＳ、㈱ＪＡＬＵＸ、㈱ＪＴＢ、㈱ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研㈱、新菱冷熱工業㈱、常磐興産ピーシー㈱、住友電設㈱、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷㈱、㈱銭高組、全日本空輸㈱、パーキングプロ㈱、セントラルリーシングシステム㈱、㈱ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業㈱、第一資材㈱、㈱大気社、大興物産㈱東京支店、大成建設㈱、大成サービス㈱、大成設備㈱、大成ユーレック㈱、大鉄工業㈱北陸支店、大日産業㈱、㈱高商、高砂熱学工業㈱、㈱竹中工務店㈱丹青社、中部電力㈱、ティーシートレーディング㈱東京支店、電研工業㈱、東海旅客鉄道㈱、東急建設㈱、東京急行電鉄㈱、東京国立博物館、（財）東京観光財団、東京電力㈱、東光電気工事㈱、東芝エレベータ㈱、東北電力㈱、トーヨーカネツソリューションズ㈱、戸田建設㈱、名古屋鉄道㈱、西日本鉄道㈱、西日本旅客鉄道㈱、㈱西原衛生工業所、西松建設㈱、日墨ホテル投資㈱日本オーチス・エレベータ㈱、㈱日本海コンサルタント、日本空港ビルデング㈱、㈱日本航空インターナショナル、（財）日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、㈱日本プラント建設、（財）日本ホテル教育センター、ネスレ日本㈱、箱根町（神奈川県）、箱根建設㈱、東日本旅客鉄道㈱、㈱日立ビルシステム、㈱日立製作所、㈱ビッグウイング、福岡空港ビルディング㈱、㈱フェイクデリックホールディングス、㈱フィールドサービス、富士機材㈱、、藤長電気㈱、富士通㈱、プラネットワークス㈱、北海道旅客鉄道㈱、北海道電力㈱、北陸電力㈱、北海道空港㈱、㈱ホテル小田急、㈱ホテルメトロポリタン、前田建設工業㈱、㈱ホテルマリックス、マイナミホールデイングス㈱、三井住友建設㈱東京建築支店、三菱電機㈱、㈱山武ビルシステムカンパニー、有楽土地㈱、㈱ＵＳＥＮ、横浜貨物綜合㈱、横浜ビル建材㈱、㈱ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング㈱、りんかい日産建設㈱

特定非営利活動法人（NPO）
人と都市・観光の地球時代を、市民が支えま
JAPAN NOW
観光情報協会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13
小田急代々木ビル３Ｆ
電 話 ０３(５３０４)９５００
ＦＡＸ ０３(５３０４)５６３２
E-mail info@japannow.org
Home page http://www.japannow.org
発行人：白澤照雄（ＪＮ協会事務局長）
編集長：加納 隆（ＪＮ協会理事）
発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

都内の百貨店で開かれた「細川護熙作品展」を、先日のぞいた。総理を退いてから始めたと言う陶器も素晴らしいが、雄渾な書に惹かれた。熊本54万石の殿様だった細川家に室町時代から伝わる所蔵品も逸品ぞろいで「信長や秀吉に献上しなかったのかな」と、思わず家内に囁く。実は、細川さんとは朝日新聞社で同期入社の仲。入社内定後の1962年秋、費用は会社もちで運転免許を取らされた。60人の仲間を半分に分け、細川さんは王子（？）の教習所組の大将、私は小金井組のキャプテン。当時の人事課長から「チーム全体で安くあげたチームをご馳走する」といわれ、結局は加納組の勝ち。加納が山口出身なので、「この“関が原合戦”は、あの時（家康対光成、毛利）と違って、西軍の勝利」と言われたものだった。入社後、鹿児島に赴任した細川さんは、山口に着任した私を、夏休みごとに訪ね一泊していった。当時を懐かしく思い出し、編集後記には相応しくない「私事」を記した次第。（加納）